

商品別見通し(輸出)

2022年12月8日(木)

品目	2021年度 (実績)		2022年度 (見込み)				2023年度 (見通し)				コメント		
	10億円	伸び率%	上半期		下半期		10億円	伸び率%	10億円	伸び率%			
			(実績)	伸び率%	(見込み)	伸び率%							
総額	85,878	+23.6%	49,578	+19.6%	53,041	+19.4%	102,619	+19.5%	→	102,632	+0.0%	2年連続増加。エネルギー価格の上昇や円安を背景に価格が2桁上昇となるなど、価格効果によって100兆円超。比較可能な1979年以降で過去最高となる。	22年度から横ばい。エネルギー価格の低下や円安の一般から価格が小幅に低下する一方で、世界経済の緩やかな成長から数量は小幅に増加する。
EX 01 食料品	1,011	+20.3%	579	+18.2%	544	+4.3%	1,122	+11.0%	↑	1,134	+1.0%	上半期は、中国や米国などにおける外食需要の回復や円安を追い風に、ホタテ貝や牛肉、アルコール飲料などの数量・金額がともに増加。下半期は、香港における飲食店の営業制限の段階的な緩和に伴う外食需要の回復も相まって、増加基調が続く見通し。	世界経済の減速による需要の鈍化や円高シフトが下押し要因となるものの、農林水産物・食品の輸出額目標(25年までに2兆円、30年までに5兆円)の達成に向けた政府支援が追い風となり、22年度からはわずかに増加する見通し。
EX 02 原料品	1,460	+33.9%	836	+12.1%	792	+10.9%	1,628	+11.5%	↓	1,496	▲8.1%	金属鉱は、アジア諸国の調達意欲低迷が価格の下げ要因となり、上半期から減少する見通し。生ゴムは、中国および欧米の自動車向けタイヤの引き合い低下により、数量・価格ともに低下する見通し。織物用繊維は、外出頻度の増加などに伴い欧米を中心に衣料品需要が回復したものの、産業需要の伸び悩みもあり横ばいとなる見通し。	金属鉱は、世界経済の減速に伴う主要輸出先の鉄鋼生産の伸び鈍化により、22年度比で数量が横ばい、金額は減少する見通し。生ゴムは、22年度に上振れた市況の反発に伴い、金額が減少する見通し。加えて、中国のゼロコロナ政策による消費縮小が下押しリスクになる。織物用繊維は、需要の緩やかな回復を受けて増加となる見通し。
EX 03 鉱物性燃料	1,233	+100.9%	1,246	+176.0%	3,847	+392.4%	5,093	+313.2%	↓	5,038	▲1.1%	ロシアのウクライナ侵攻に伴う原油価格の高騰と円安による価格上昇を主因に、大幅な増加となる見通し。数量も、好調な輸出採算を背景に灯油(ジェット燃料を含む)や軽油の輸出が増加。	欧州の石油製品需要の高止まりなどから、23年度も国内製油所の稼働率は高水準を維持することが見込まれ、数量は堅調に推移する一方、価格は原油価格の下落により落ち着き、金額はやや減少する見通し。
EX 04 化学製品	10,889	+22.9%	6,001	+13.3%	5,649	+1.0%	11,650	+7.0%	↓	11,282	▲3.2%	プラスチックや有機化合物は、原油価格と円安の影響で価格が上昇するが、数量は上半期の定期修理と下半期のアジア需要の停滞が響き、増加しない。無機化合物は、高水準にあるグローバルな生産活動を支えに、数量が増加し価格は上昇する。医薬品は、増加が続くがASEAN向けは21年度にワクチン輸出が増加した反動で減少する。	プラスチックや有機化合物は、原油価格が下落する影響で減少するが、中長期的な需要はグローバルな人口増加に応じて緩やかに増加する見通し。無機化合物や医薬品は、22年度並みとなる。
EX 05 原料別製品	10,444	+37.4%	6,090	+21.1%	6,345	+17.2%	12,436	+19.1%	↑	12,946	+4.1%	鉄鋼や非鉄金属、織物用糸・繊維製品などの価格は、エネルギー価格の上昇や円安などの効果によって上昇し、数量も経済活動の再開・景気回復などから増加するため、金額も2桁増になる。	価格は底堅く推移する見通し。数量は欧米の景気減速の影響を受けて弱含む半面、東南アジア向けが需要の下支えとなることで、金額は小幅な増加となる。
鉄鋼	4,136	+62.7%	2,476	+26.7%	2,484	+13.9%	4,960	+19.9%	↑	5,154	+3.9%	世界経済の減速やエネルギー価格の上昇などが重しとなり、数量は21年度から減少する。一方で、価格はいったんピークアウトするものの、高水準で推移するため、21年度比で大幅に上昇し、金額も21年度を大幅に上回る。	数量は、中国需要の減速が継続するものの、自動車や家電製造向けなどを中心とした東南アジア向けが小幅に増加する上、価格も底堅く推移するとみられることから、金額は22年度から小幅に増加する。
非鉄金属	2,136	+26.9%	1,270	+22.3%	1,267	+15.5%	2,537	+18.8%	→	2,545	+0.3%	銅は、経済活動の再開などから下半期の数量が上半期から小幅に増加する一方で、価格は上昇した上半期からそのまま高値で推移すると想定されるため、金額は2桁増となる。アルミニウムは、インフレやアジアでの新型コロナ感染再拡大の影響などにより世界需要が軟調に推移するとみられることから、数量・価格ともに低下する。	銅は、引き続き価格が高水準を維持する一方で、数量は景気減速の影響などから小幅に減少するため、金額は22年度からやや減少する。アルミニウムは、各地での減産拡大や需要回復を見据えて価格がやや上昇し、下半期にかけて世界需要が回復するとみられることから、数量がやや増加するため金額はやや増加する。
織物用糸・繊維製品	689	+19.2%	390	+17.0%	478	34.2%	868	+25.9%	↑	946	+9.0%	金額は大幅増加。円安や原材料高騰による価格上昇、アジアや中東向けの堅調な輸出が全体を押し上げる。	金額は増加。欧米の景気減速の影響は残るものの、アジアや中東向け輸出が引き続き堅調に推移。
EX 06 一般機械	16,931	+25.6%	9,421	+15.3%	9,779	+11.6%	19,200	+13.4%	↓	18,850	▲1.8%	半導体等製造装置の旺盛な需要に加え、新型コロナや供給制約の影響により伸び悩んでいた自動車の需要回復を背景に、車両用エンジン部品の原動機が堅調に増加する見通し。	半導体メーカーの設備投資意欲の減速により、半導体等製造装置が大幅に減少するとともに、原動機を含む多くの品目は、コロナ禍による変動が落ち着き、緩やかな伸び率に回帰していく見通し。
原動機	2,560	+19.7%	1,391	+14.8%	1,397	+3.6%	2,788	+8.9%	↑	2,866	+2.8%	車両用の原動機が堅調に増加するとともに、電力用の原動機の維持・更新の需要増が継続する見通し。	環境配慮・規制を背景に、車両用および電力用の原動機の受注は小幅な伸びにとどまる見通し。
半導体等製造装置	3,561	+33.9%	2,087	+24.5%	2,606	+38.3%	4,693	+31.8%	↓↓	4,030	▲14.1%	半導体メーカーの積極的な設備投資が維持されてきたことから、上半期の輸出数量・金額は高水準で推移した。しかし、スマートフォンやPCなど民生向け半導体需要が弱含んできていることなどから、下半期の輸出数量の伸びはやや鈍化する見通し。他方で大幅な円安が進行しており金額は増加する。	22年度からの民生向け半導体需要の停滞やメモリ価格の低下を背景に、半導体メーカーでは設備投資計画の見直しが進んでおり、輸出数量・金額は大幅に減少する。
EX 07 電気機器	15,775	+19.5%	8,733	+14.0%	8,685	+7.0%	17,418	+10.4%	↓	17,164	▲1.5%	増加が続く。半導体等電子部品が増加するほか、その他品目でも緩やかな需要増と円安に伴う価格上昇が続く見通し。	減少に転じる。円安に伴う価格上昇が一般の中、重電機器などで底堅い需要が続くものの、半導体等電子部品を中心とした減少が全体を押し下げる見通し。
半導体等電子部品	5,082	+19.4%	2,895	+18.4%	2,885	+9.4%	5,780	+13.7%	↓	5,618	▲2.8%	上半期は多くの製品で数量・価格ともに堅調に推移するものの、主力製品の一つであるメモリには需要の落ち込みもみられた。下半期は最終製品であるスマートフォン、ノートPCに関してさらなる需要減が予想されることから、金額は上半期比で横ばい程度にとどまる見通し。	世界経済の減速の下で最終製品需要の低下が予想されることから、22年度比で金額は減少する見通し。また、米国による先端半導体の対中輸出規制に日本政府が追随する場合、主要輸出相手国である中国への輸出数量・金額が変動するリスクが生じる。
電気計測機器	1,877	+20.3%	987	+6.8%	1,055	+10.7%	2,042	+8.8%	→	2,028	▲0.7%	増加が続く。新型コロナによる影響からの回復を背景に、緩やかな需要増が続く。また、円安に伴う価格上昇が、金額ベースの押し上げに寄与。	世界経済の減速を受けて需要の増加ペースが緩慢となるほか、円安に伴う価格上昇も一般することから、横ばいとなる見通し。
EX 08 輸送用機器	16,224	+13.3%	9,350	+18.0%	9,807	+18.1%	19,157	+18.1%	↑	19,520	+1.9%	円安などの影響により自動車を中心に堅調で、21年度比で増加する見通し。自動車関連は、半導体不足などの影響はあるものの、円安が追い風となりコロナ前の水準まで回復する。船舶は、経済再開により追加受注発生や大幅な円安により、21年度比で増加となる見通し。	主要国の経済減速が下押しとなり、22年度比でほぼ横ばいとなる見通し。自動車関連は、半導体不足改善などの見込みはあるものの、主要国を中心とした経済減速により小幅な増加にとどまる。船舶は、21年度の造船事業撤退により日本側の供給余力がなく、減少となる見通し。
自動車	10,731	+12.8%	6,341	+22.0%	6,589	+19.0%	12,929	+20.5%	↑	13,320	+3.0%	上半期は半導体不足や上海ロックダウンなど新型コロナ感染拡大の影響により、台数は横ばいとなるものの、価格は高級車へのシフトや円安の影響で上昇。下半期は半導体不足の改善、新型コロナ感染拡大一服などに加え、円安が押し上げ要因となり、金額はコロナ前の19年度水準まで回復する見通し。	半導体不足の影響は残るものの回復基調となり、数量・金額ともに伸びが予想されるが、主要国を中心とした経済成長減速が下押しとなり、22年度比で緩やかな増加にとどまる見通し。
自動車の部分品	3,656	+24.1%	1,921	+5.2%	2,015	+10.1%	3,936	+7.6%	↑	4,102	+4.2%	数量はロックダウンや半導体不足などの影響により米中向けが減少する。一方、金額は米国を中心に円安などの影響により増加傾向で、21年度を上回る見通し。	中国、ASEANを中心に自動車市場は回復基調で、堅調に推移する見通し。
船舶	997	▲9.1%	592	+20.0%	730	+45.0%	1,322	+32.6%	↓↓	1,154	▲12.7%	経済再開により追加受注ははてきているが、中国・韓国勢の攻勢は変わらない。数量は21年度比で微減となるも大幅な円安により、金額は通年で3割増となる見通し。	発注量はコスト・海運市況次第だが、21年度の5社6工場の造船事業撤退により日本側の供給余力がなく、設備増設の見込みは現状ない。22年度比で数量・金額ともに減少となる見通し。
EX 09 その他	11,911	+25.6%	7,321	+28.4%	7,594	+22.3%	14,915	+25.2%	↑	15,201	+1.9%	円安による価格上昇を主因に大幅な増加が続く。	科学光学機器は堅調に推移するものの、海外需要の鈍化と価格上昇の一般を受けて、全体として小幅な増加にとどまる。
科学光学機器	2,330	+15.9%	1,269	+10.9%	1,284	+8.3%	2,553	+9.6%	↑	2,711	+6.2%	下半期は、先進国の景気後退が懸念されるが、円安の影響や堅調なアジアのスマートフォン需要を背景に、上半期と同水準となる見通し。22年度全体として、アジアを中心にスマートフォン市場や医療検査機器市場が堅調に推移するとみられ、増加する見通し。	先進国の景気後退が重しとなるが、円安基調継続は輸出の押し上げ要因になる。加えて、高性能スマートフォンや医療検査機器の世界的需要は、引き続きアジアを中心に堅調に推移するとみられ、増加する見通し。

*2022年度上半期の実績は確報ベース、金額は表示単位未満を四捨五入しているため計算が合わないことがある。

*「↑」は前年度比増加、「↓」は減少、「→」は横ばい(前年度比±1%未満)を表している。